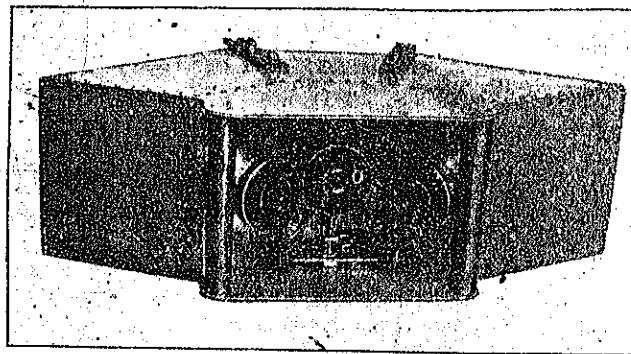


空中撮影測量

空中撮影測量法ハ航空機上ヨリ地上ノ寫眞ヲ撮リ適當ナル方法ニ依リテ之ヲ地圖ニ作成スルノ方法ニシテ今回ノ大戰ニ際シ多クノ實驗ヲ重ネ真ニ實用的ナルヲ確實ナラシメタルモノナリ本文ハ米國地質測量局技師もつゞ氏ノ所說ヲ摘載セルモノナリ
抑モ寫眞測量法ノ創案者ハ塊國陸軍技師て必どるし、いむぶろぐ氏ニシテ氏ハ地上ノ一點ヨリ前方ノ形象ヲ撮影シ其映畫ニ依リテ地形圖ヲ作成スルノ方法ヲ案出シ多年ニ亘ル熱心ナル研究ニヨリテ其完成ヲ計レウ

寫眞器ノ軸ヲ鉛直ニシテ地面ト乾板面トヲ並行ナラシメテ撮影スル時ハ映畫ハ即地面ノ平面圖ニシテ其縮尺ハ器ノ高度トれんずノ焦點距離トニ依リテ定マル依テ自在ニ位置ヲ轉シ得ル飛行機上ヨリ連續的ニ撮影スル事ニ依リテ任意ノ面積ノ地圖ヲ作成スル事ハ一見容易ナルカ如キモ茲ニ二種ノ困難ニ際會ス。一ハ即乾板面即寫眞器ヲ水平ニ保持スル事ノ困難ナルコト。二ハ飛行機ヨリノ撮影ニ用フル如キ銳敏ナルれんずニ於テハ其視角狹少ニシテ從テ所用ノ面積ノ地圖ヲ得ンカ爲ミニ極メテ多數ノ撮影ヲ必要トスル事是レナリ

空中撮影寫眞器 既ニ述ヘタル如ク銳敏ニシテ而モ視角ノ過小ナラサル爲ミニハ複合寫眞器ヲ使用セアルヘカラス即三箇ノれんずヲ有シ其中央れんずノ焦面ヲ水平トナシ兩側ノモノ、焦面ハ之ニ同一ノ傾斜ヲ爲ス而テ此等三れんずニ依リテ生スル映畫ハ互ニ若干ノ重複ヲナシ以テ映畫ノ連結ヲ容易ナラシム而テ通常使用スル型ハ第一圖ニ示セルモノナリ該器ハ高サニ五時幅二二時厚サ七時ヲ有シ二部ヨリ成リテ互ニ分離シ得即上部ハふるむ卷ヲ容レ下部ハ三個ノ獨立セル暗函ヨリ成ル兩側れんずノ焦面ハ中央ノ夫レニ對シ各三五度ノ傾斜ヲナス而テれんずノ焦



第一圖 写眞器ノ取付ケ

點距離ハ中央ノモノ六時兩側ノモノ七時位ヲ普通トス尙飛行機ノ振動及器軸方向ノ變動絶エサルヲ以テ映畫ノ鮮明ヲ期センニハ光線ニ曝露スル時間ヲ極メテ短少ナラシメサルヘカラスム。るむハ幅五時長六時ノ區分ヨリ成リ一卷ハ凡ソ四〇〇呎位ニシテ特ニ光線ニ敏感ナル如ク製造セルモノナリ。

寫眞器ノ取付ケ　寫眞器ハ展望者座席ノ底部ニ穴ヲ穿チテ取り付ケタル籃内ニ安置ス撮影ノ回數及間隔ハ器ノ高度、速されんずノ視角等ヲ參酌シテ各畫互ニ少許ノ重複ヲ有スル如クス普通用フル所ハ $\frac{1}{4}$ 乃至一分毎ナリ然レトモ撮影者ハ機ノ速度ニ賴ラスシテ別ニ六時平方位ノ大見出鏡ヲ用キテ適當ナル撮影間隔ヲ定ム尙寫眞器ヲ水平ニ保持スル事ハ頗ル困難ニシテ各撮影ニ對シテ傾斜ノ角度及向キヲ記録スルノ必要アリ器中ニじゅいろすこ（一種ノ獨樂ニシテ力學的ニ器ノ傾斜ヲ防止スル作用ヲナス裝置ナリ）ヲ應用シナハ其缺點ヲ防止シ得ヘシ

映畫ノ再寫　空中撮影ニヨリテ得タル映畫ハ寫眞自體ノ有スル歪及器ノ傾斜ヨリ生スル誤差ヲ補正セサルヘカラス此ノ爲ニ各點ノ真位置ヲ投射法ニ依リテ定ムルハ極メテ煩キテ作成サル

第二圖ニ於テ AP_1 及 AP_2 ハ A ナル直線上ニテ交切スル二平面ヲ現ハシ任意ノ O ヲ過リテ此二面ニ並

行ナル $C_2 C_1 O$ 二平面ヲ考フ今 AP_1

上ノ一點 a ヲ O ヲ過リテ AP_2 面上ニ投射シ a' ヲ得次ニ AP_1 面ヲ A 線ヲ

軸トシテ廻轉シ a' ヲ a'' ニ C_2 ヲ C_1 ニ O ヲ O' ニ移リタリトスレハ $a' O'$

a'' 三點ハ一直線上ニ横ハルヘク即 O' ハ矢張リ a ノ投射心ニシテ射影點 a'' ハ AP_2 面上ニ存在スヘシ

次ニ第三圖ニ於テ O ハ焦點距離 f ヲ有スルれんずニシテ其軸ハ二

平面 $AP_1 AP_2$ ノ交線 A ニ垂直ナルモノトス而テ O ノ位置ハ OA 軸ヨリノ

垂直距離カ $2f$ ニ等シキ如キ AP_1 及 AP_2 面上ノ二點 ab ヲ結フ直線ト AO 軸

トノ交叉點ニ存スルモノトス然ルトキハ AP_1 又ハ AP_2 面ノ一面上ノ凡

テノ點ノ像ハ必ス他ノ一面上ニ存在スヘシ次ニ此等ノ原理ニ依リ

再寫ノ作用ヲ説明センニ第四圖ニ於テ P_2 ヲ以テ ABC 等ノ地上諸

點ヲ映寫セル乾板ノ位置ナリトシ f_1 ヲ寫眞器れんずノ焦點距離 i

ヲ中央乾板位置ノ水平面ニ對スル傾斜角 D ヲ器ノ地上ヨリノ高サ

ト做セハ $a b c$ 等ノ像ノ大サハ焦點距離 f 及器ノ高サ D ニ依リ且

ツ陰畫面ノ傾斜ニ因リ真ノ大サヲ示サス依テ

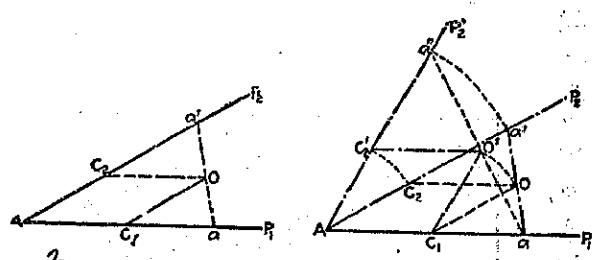


FIG. 2 PRINCIPLE IN APPLICATION OF THE TRANSFORMING CAMERA TO THE RECTIFICATION OF INCLINED PHOTOGRAPHS

第二圖

P_1 面トノ距離 h ニ支配サル而テ P_1 ナル映畫ヲ P_2 ノ再寫ニヨリテ得ンニハ第
四圖ノ右側ニ示セル如ク $P_1 P_2$ 二面ヲ A 線上ニ交切セシメ O ヲ過リテ AP_1 及 AP_2
ニ並行ニ $C_1 C_2 O$ 及 $C_1 C_2 O'$ 引キ且ツ f_1 ナル焦點距離ヲ有スル再寫用れんずラ O 點ニ
置ク f_1 ハ $C_1 C_2 O$ 及 $C_1 C_2 O'$ リ OA 線上ニ到ル垂直距離ニ等シキモノナリ然ルトキハ P_2

此等ヲ地面ト並行ナル平面 P_1 ニ投影シタル映畫ヲ求メサルヘカラス此 P_1 ノ縮尺ハ更ニ O ド
ト

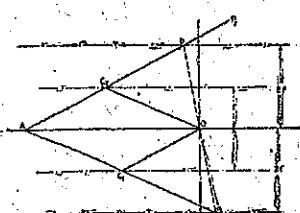


FIG. 3 THE CONDITION FOR FOCUS IN THE TRANSFORMING CAMERA

第三圖

上ノ點 a b c 等ハ凡テ P_1 上ノ a' b' c' ニ像ヲ結フヘシ而テ斯ノ如キ方法ニテハ傾斜角 i ノ異ナル
毎ニ f_3 ヲ異ニシ從テ異ナレルれんずヲ使用セサルヘカラス此ノ不便ヲ避ケル爲メニ P_1 面ヲ A 線
ノ回リニ回轉シ $C_2C'_2$ 及 $C_1C'_1$ ノ距離ヲシテ使用れんずノ焦點距離ニ等シカラシム

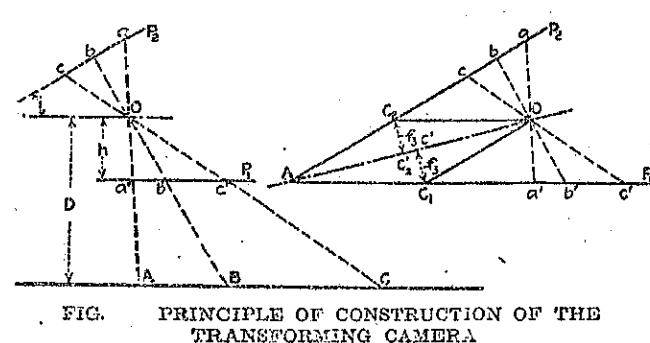
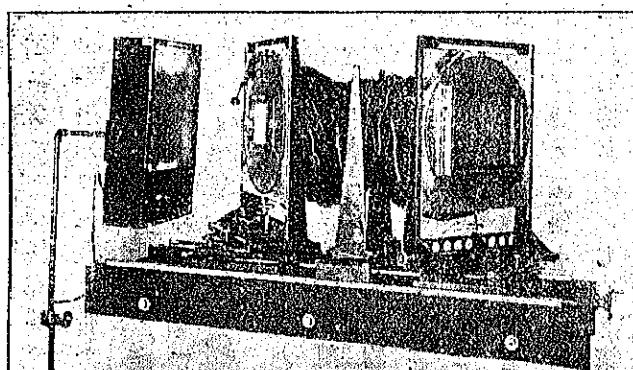


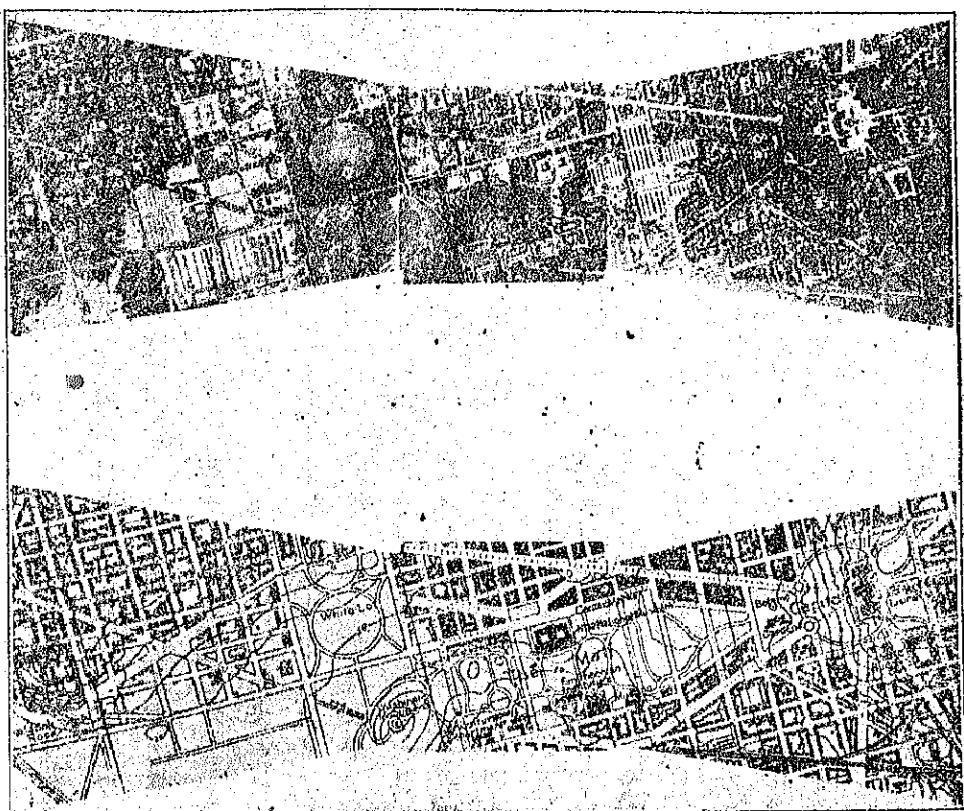
FIG. PRINCIPLE OF CONSTRUCTION OF THE TRANSFORMING CAMERA

第四圖

再寫器 (Transforming Camera) 前述ノ原理ヲ實現シ得ヘキ最モ簡単ナル再寫裝置ハ中央ニれんずヲ置キ兩端ニ陰畫及乾板ヲ取付ケ而モ兩側ハひんぢニヨリテ互ニ任意ノ傾斜角ヲ爲シ得ル如キ暗函ニシテ第五圖ハ今日使用サル、所ノ再寫器ナリ該器ニ於テハれんずハ適當ニ其位置ヲ變シ得ヘク兩側ノ相互回轉ノ鉛直軸モ亦アル範圍内ニ其位置ヲ變シ以テ適當ナル縮尺ニ鮮明ナル映畫ヲ作ランニハ飛行機上ノ寫眞器ニ依リテ一撮影ヲナシ其ノ兩側ノ映畫ヲ得ントス即空中撮影ニ依リテ地圖ヲ作ランニハ飛行機上ノ寫眞器ニ依リテ一撮影ヲナシ其ノ兩側ノ映畫ヲ中央(即寫眞器ニ平行ナル乾板)ノ映畫ニ聯接シ尙若シ撮影當時器カ水平トアル傾斜ヲ爲セル時ハ更ニ再寫器ニヨリテ之ヲ水平ニ引キ直ス例ヘハ



第五圖



第六圖

スル地圖ヲ示ス。斯ノ如キ局部圖ノ多數ヲ接合シテ一地方ノ地圖ヲ得ヘシ。主要ナル缺點、空中撮影測量法ニ於テハ二ツノ重大ナル缺點ヲ有ス。一ハ空中撮影畫ヲ再寫スルニ必要ナル器ノ傾斜ヲ確知スルコトノ困難ナル事ニシテ他ハ地ノ凹凸ヨリ來ル距離ノ誤差寫真ナルヲ以テ同シ寸法ノ物體ニテモ高位置ニ存スルモノ、映畫ハ大ナリ是レナリ第一ノ缺點ハ撮影時間ノ器ノ傾斜ヲ出來得ルタケ正確ニ測知シ一方飛行機ノ傾斜ニ係ラス寫眞器ヲ水平ニ保持スルノ方法ヲ講究スルノ必要アリ。第二ノ缺點ハ縮尺ノナル平面圖ニ於テ一層重大ニシテ其改良ハ今後ノ研究ヲ俟タサルベカラス。

空中撮影ニ用フル寫眞器ノ構造及れんずノ焦點距離ハ頗ル多種ナルモれんずノ視角ハ略一定セリ而テ複合寫

眞器(一回ノ撮影ニ中央及兩側ノ三映畫ヲ得ルモノ)ヲ使用スルハ空中撮影ニ使用スルれんずハ非常ニ銳敏ナルヲ要シ爲メニ其視角ハ極メテ狹少ニ從テ一回ニ撮影シ得ル範囲小ニシテ不利ナルヲ以テ三個ノ寫眞器ヲ詰合シ同時ニ三映畫ヲ得ル裝置トセシナリ

空中撮影測量ノ利點　寫眞ニヨリ地圖ヲ得ルノ方法ハ其利點頗ル多ク

(一)普通ノ測量法ニ比シ非常ニ短時間ヲ以テ施行シ得ヘク

(二)地形ノ詳細ヲ知リ得ル事

(三)費用ヲ節約シ得ルコト

(四)撮影當時地上ノ景況ヲ知リ得ルコト

(五)地上ニ於テハ到達シ得サル地域ヲ測量シ得ルコト等主ナルモノナリ三乃至五哩幅員ノ地帶ハ一時間七五乃至一〇〇哩ノ速度ヲ以テ撮影シ得ヘク即現今ノ地形測量野業ニ比シ僅カニ數千分一ノ時日ニ過キス地面凹凸ノ甚シキハ圖ノ正確ヲ期シ難キヲ似テ廣キ平原部ノ測量ニ適シ若シ古キ地圖ノ補測ニ之ヲ利用シナハ其便極メテ大ナルヘシ

(完)

大西洋空中輸送飛行

(本文ハ一九一九年二月七日ノEngineeringニ於ケルビーベリーンヒル氏ノ所説ヲ譯載セルモノナリ)

佛人 Blériot カ英佛海峽ノ飛越ニ成效シテヨリ十歳ヲモ経過セヌ今日ニ於テ航程2,200哩ノ大西洋横断飛行ハ早クモ事實トシテ現ハルヽニ至ツタ從來飛行機ノ飛行直徑ハ無着陸ニテ約600哩ニ過キナイカラ大西洋ヲ一舉ニ飛越セントスレハ此距離ヲ約四倍ニ延長シナケレハナラヌ依テ次ニ理論上カラ其能否及方法ニ就テ少シク研究シヤウ
拙著「航空力學」ニ記述セル如ク同一量ノ揮發油ニヨリテ飛行直徑ヲ增大セシニハ飛行速度ヲ增加スルノカ最モ經濟的テアル